

NCS色空間全体のパーソナルカラーフォーシーズン分類とその特徴

Classifications and characteristics of four-season colors in NCS color space

高松 操
石上 桂子
乾 宏子
丸山 眞澄
市場 文規
高橋 晋也

Misao Takamatsu
Keiko Ishigami
Hiroko Inui
Masumi Maruyama
Takenori Ichiba
Shin'ya Takahashi

昭和女子大学
アトリエエクリュ
ルミエールカラーインスティテュート
Color Lab. for full Life
東海学園大学

(くらしの色彩研究会)

Keyword : パーソナルカラー, 4シーズン分類, NCS色空間, Blue-view, Yellow-view, 清色感, 濁色感, 明濁色

1. はじめに

パーソナルカラー診断では、似合う色の判別に主眼が置かれ、4シーズンカラーにて似合う色をクライアントに提案するというスタイルが主流である。しかしながら、その4シーズンの色は、団体やカラリストによって異なっているのが現状である。そこで、各シーズンに分類される色の特徴に規則性を見出せないかと考え、4シーズンカラーの色空間全体の中でのポジショニングの把握を試みた。

これまでドレープの特徴を色空間上で検討する研究発表はいくつかみられるが、色空間全体を分類把握する検討は見られない。本研究では、NCS色空間上で各色をパーソナルカラー4シーズンにより分類し、Hueごとの特徴やNuanceによる傾向の把握を目指した。

2. 調査・分類方法

実務経験15年以上の熟練カラリスト2名が個別に単独で分類を行った。カラーカードには、市場らりによるパーソナルカラーの色表示にNCS表色系が適しているという研究報告に基づき、「NCS INDEX 1950 Original」(1頁10色づつからなる短冊型色票)を用いた。各色票を観て、どのシーズンの色であるか判別した。作業詳細を表1に示す。

使用したカラーカードは、モノトーン19色に、40色相、全部で1950の色票からなる。各色相の色票数は色相によって異なり、少ない色相で約20色、多い色相では約60色である。少ない色相では、低彩度かつ低明度の領域が広く省略されているため、両隣の色相の同Nuanceの色票から推測した。今回分類を行ったのは、Y・R・B・Gを含む一つおきの20色相である。1回目の分

類判別後、判別に加える必要があると思われた色相を追加して分類を行った(表2)。

紫系の色相では、塗料色では再現が難しい高彩度の色票がないため、全体を捉えるため必要と思われた箇所については、染料色による色票「JCBB Color Nav.」によって補填した。

表 1. 調査・分類作業の詳細

カラリスト	A	B
判別時間	約10時間(1日)	約7時間(1日) (記入者は別)
検証時間	約3時間	約5時間
照明条件	昼白色蛍光灯 1000lx以上	昼白色蛍光灯 1000lx以上
マスクの有無	判断に迷った際に使用	

表 2. 分類に用いた色相

1回目判別	G, G20Y, G40Y, G60Y, G80Y Y, Y20R, Y40R, Y60R, Y80R R, R20B, R40B, R60B, R80B B, B20G, B40G, B60G, B80G
追加判別・検証	G90Y, Y90R, B90G, G10Y

3. 結果

結果を見ると、2人のカラリストは独立に分類作業を行ったにもかかわらず、各シーズンの出現領域の傾向が(境界付近の違いはあるが)よく似ていることが分かった(図1)。

1) Nuanceの傾向

色相によって差はあるものの、各シーズンが出現する同一色相面にはNuanceによる傾向が観て取れる。s=5の明清色領域を中心に現れるのがスプリング。s=10の領域(この領域を「明濁色」と名付けた)はサマー。中間色はオータムが優勢となる。暗清色は優勢なのはオータムであるが、ウィンターに分類される色は主にこの領

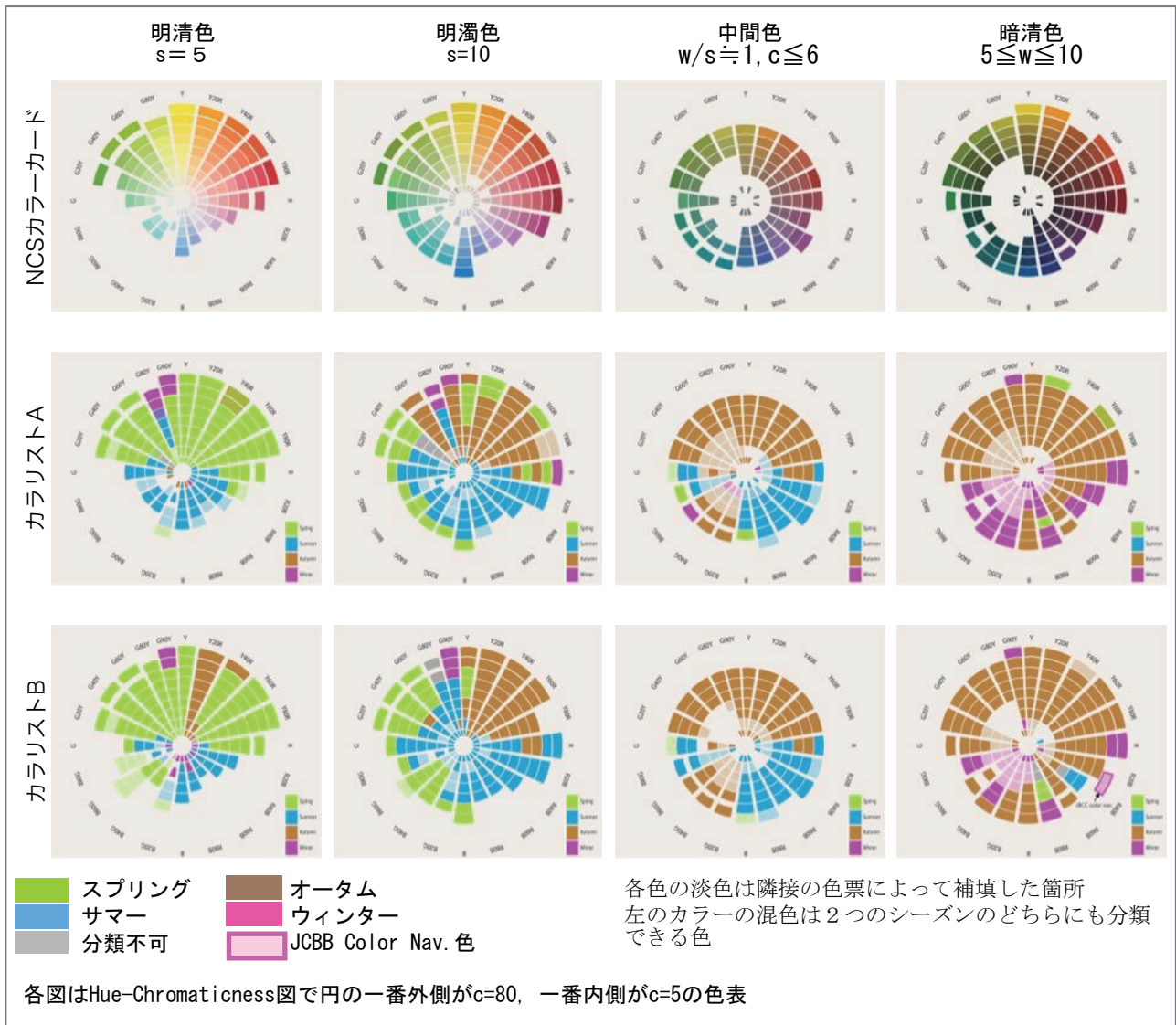


図1. フォーシーズン分類結果(4領域ごとに色相環状に表示)

域である(図2). 特徴が見やすいように、分類結果を明清色($s=5$), 明濁色($s=10$), 中間色($w/s=1, c\leq 6$), 暗濁色($w\leq 10$)ごとに色相環状に表示した(図1). また、色相によって変遷していく等色相面図での分布傾向を図3に示した. $c=5$ 以下のoff Whiteからoff Neutralの領域については、興味深い分布傾向が見られるが、今回の報告では割愛する.

2) Hueの傾向

R, B, G付近を境にシーズンの分布が大きく変わる. Rでは図2に類似した分布となるが、これよりB方向になると、低彩度の明濁色領域のサマーが明清色領域と中間色領域に迫り出していく. 明清色領域のスプリングはなくなり、オータムは中彩度の暗濁色領域を中心とする濃色方向に後退し、クールグループが優勢になる. Bに

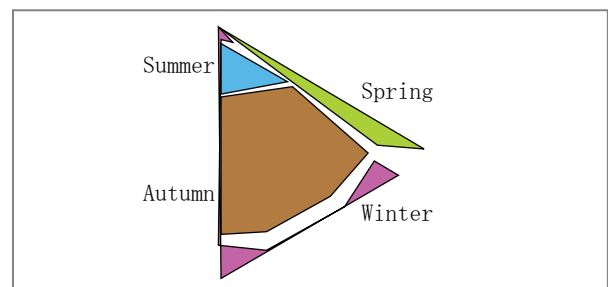


図2. 等色相面図上のフォーシーズンの分布傾向

なると、スプリングが比較的彩度の高い中間色の領域に出現する. B20G-B80Gは、スプリングの分布状況について、2人のカラリストによる差が最も出た領域である. カラリストBは明清色領域を中心に、カラリストAは比較的彩度の高い中間色を中心にスプリングが出現する. オータムはサマーを低彩度の明濁色領域に押し戻すように領域を広げていく. Gになるとウィンターがなくな

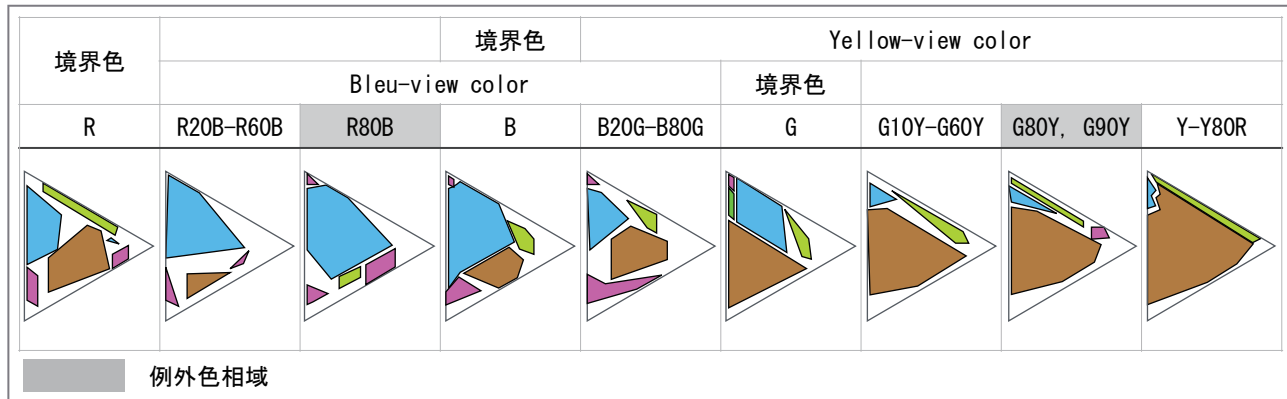


図3. 等色相面図におけるフォーシーズン分布の変遷

なり、暗青色は全てオータムとなる。またオータムは上方向にも領域を広げる。G20Y-Y60Rになると、明清色領域をスプリングが占領する。サマーは低彩度の明濁色領域のみになり、Y20R, Y40Rではなくなる。その分オータムの領域が広くなり、ウォームグループが優勢となっていく。Y80Rではサマーが再度、低彩度の明濁色領域を中心に出現し、Rでウィンターが高彩度と低彩度の暗青色領域に出現する(図3)。

3) 2つの例外な色

G80Y/G90Yの高彩度の明清色の領域にウィンターが出現する。また、R80Bの中彩度の暗青色の領域にスプリングが出現する。

4. 考察

2人のカラリストが色を4シーズンに分類した際の判断基準を表3に示す。この「黄み」/「青み」と清濁という2つの軸について考察する。

表3. フォーシーズン分類の判断基準

	黄み	青み
清色	スプリング	ウィンター
濁色	オータム	サマー

1) ビレンのウォームシェード/クールシェードとは異なるYellow-viewとBlue-view

ビレンは「朱色と緑みの青を寒暖の極点としてどの色相も朱色寄りの色は暖かい色、緑みの青寄りの色は冷たい色とする」と説き、それぞれをウォームシェード・クールシェードと称し、色彩調和を提案した²⁾。一般にパーソナルカラーではこの考え方が支持されていると言われ、スプリングとオータムがウォームシェード、サマーとウィンターがクールシェードに相当する。ウォームシェード/クールシェード=「黄み」/

「青み」と仮定するならば、今回の結果は必ずしもこれを支持しない。寒暖の極点はともかく、全ての色相の左右でウォームシェード/クールシェード=「黄み」/「青み」が出現するわけではない。むしろ等色相面図上の分布状況を色相環上に並べると、ある傾向が見て取れる。G-Y-Rの領域では「黄み」を感じるグループが優勢で、R-Bの領域では「青み」を感じるグループが優勢になる。B-Gの領域では、「黄み」グループと「青み」グループが共存し、カラリストによってスプリングの分類に差異が見られるなど、他の色相とは異なる様子が見て取れる。

黄色と橙・黄緑・そして青に黄を混ぜて作る緑の色味がある色は「黄」を感じる色相(Yellow-view colorと命名)であり、逆に、青と青みの緑、赤に青を混ぜてつくる紫の色味がある色は「青」を感じる色相(Blue-view colorと命名)である。つまりR, G, Bを境界とした時のR-Y-G-Bの領域の色相をYellow-view color, R-B-Gの領域の色をBlue-view colorと定義する(図4)。両方が重なるB20G-B80Gの領域は等色相面上での分布が複雑になり、カラリストによってYellow-view/Blue-viewの判断が分かれる色が存在する領域でもある。

2) Yellow-viewとBlue-viewに分ける色相以外のもう一つの要素

Yellow-view colorの色相でもNuanceによってはBlue-viewに感じる色が存在する。これはあたかもその色に青を少し混ぜたように見える色で、濁って感じるため、サマーと分類される。逆にBlue-view colorでもYellow-viewに感じる色が存在し、同じようにあたかも少量の黄を混ぜたように見える色でBlue-view colorの色相の中彩度の暗青色を中心とした濃色領域で起きる。この領域は暗青色であっても濁色に感じ、オータムに分類される(表4)。

3) 色彩学の清濁とは異なる「清濁」感

もう一つの軸，清濁について考察する．確かに，スプリングは明清色，ウィンターは暗清色を中心に出現する．またサマーは淡い濁色に，オータムは濃い濁色を中心に出現する．しかし，G-Y-Rの色相では暗清色がオータム，R-Bの色相では明清色がサマーに分類される．カラーカードを観察すると，Yellow-view colorの色相は黒が混ざると濁って見え，Blue-view colorの色相は白が混ざると濁って見える．そのことから先述のような分類になるのではないかと考えられる．

今回のこの分類作業により，濁色であっても清色に見える，あるいは，清色であっても濁色に見える色の存在を認識した．そこでここでは，色彩学での清色/濁色とは別に，感覚として澄んで見えることを「清色」感，濁って見えることを「濁色」感と表記する(表5)．

B-Gの色相では，スプリングが比較的高彩度の濁色(中間色)領域に出現するが，これらの色も濁色であるにも関わらず，「清色」感の色である．

従って，今回の調査によって判明した4シーズンの分類基準として，表3は表6のように書き換える事ができる．

4) 2つの例外の色群

G80Y/G90Yの高彩度の明清色の領域にはウィンターが出現する．この色は黄色に少量の青を混ぜたようにも感じるのでBlue-viewである．黄色に補色の青を混ぜたように見えるにもかかわらず、濁りを感じられない．また，R80Bの中彩度の暗清色の領域にスプリングが出現する．この色は黄が混ざったように見えるわけではないが，Yellow-viewグループのスプリングに分類される．これら例外色の「見え」は今後の検討課題とする．

参考文献

- 1) 市場 丈規 他: パーソナルカラー診断用ドレープに適した色表示空間, 日本色彩学会誌, V o 1 3 6 Supplement, (2010) p. 108-109
- 2) 福田 邦夫: 色彩科学選書 3 色彩調和論, 朝倉書店, (1996) P. 113-114

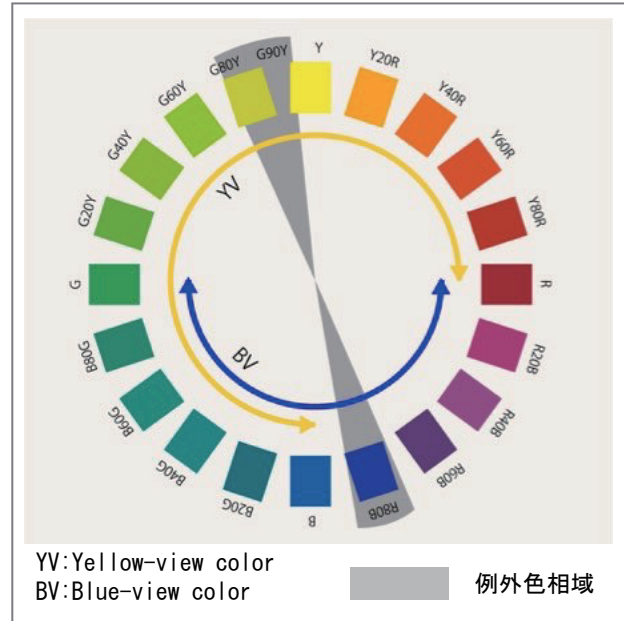


図4. Yellow-view colorとBlue-view colorの色相

表4. Yellow-viewとBlue-viewの色

Yellow-view	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄と黄を混ぜて作る色(橙・黄緑・緑・緑みの青): B-G-Y-Rの色相 ・ Blue-view colorの色相でも黄を混ぜたように見える色: R-Bの中彩度の暗清色と濃色寄りの中間色
Blue-view	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青と青を混ぜて作る色(紫、青みの緑): R-B-Gの色相 ・ Yellow-view colorの色相でも青を混ぜたように見える色: Y20R, Y40Rを除くG-Y-Rの低彩度の明濁色付近の色 ・ G80Y, G90Yの高彩度明清色

表5. 「清色」感, 「濁色」感の色

	Yellow-view color	Blue-view color
「清色」感	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明清色(高彩度中心) ・ B-Gの高彩度の明濁色と中間色 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗清色(低彩度・高彩度中心)
「濁色」感	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間色(濃色中心) ・ 暗清色 ※黒が混ざると濁って見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間色(淡色中心) ・ 明清色(低彩度中心) ※白が混ざると濁って見える ・ 暗清色の一部(中彩度中心)

表6. 調査によって判明したフォーシーズン分類の基準

	Yellow-view	Blue-view
「清色」感	スプリング	ウィンター
「濁色」感	オータム	サマー